
 長年の想いが叶い、カシミヤの故郷に行って来ました。
 今回はアラ善（アラシヤン）カシミヤの特集です。

そこは世界一のカシミヤが獲れる中国・内モンゴル自治区のアラ善左旗。
 中国でも秘境と言われる処でした。

地平線まで続く広大な半砂漠は冬は零下20度、夏は40度にもなる厳しい環境です。
 訪れたのは一年で最も素晴らしい春、抜けるような空の下でカシミヤに会えました。

これを期に UTO ALASHAN (ユーティーオーアラシヤン) ブランドをスタートします。
 青山本社に堤が入りました。どうぞ宜しくお願いします。

【世界一のカシミヤ・アラ善（アラシヤン）】

アラシヤンと聞いてピンと来る人は相当のカシミヤ通だと思えます。

カシミヤの原毛が獲れるのは中国、モンゴル、アフガニスタン、イランなどのアジアの限られた地域で、年間生産量が羊毛ベースで約7千トン。羊毛生産の123万トンに比べると0.6パーセントと、1パーセントに満たない量です。

一般にウールと言われる羊のほかにアンゴラ、アルパカ、カヤメル、モヘヤなど動物の毛が高級素材として使用されていますが、カシミヤはウールの中でも抜群の軽さと柔らかさの優れた素材のために一括りでカシミヤと言われますが、カシミヤの原毛は、ホワイト、ブラウン、ブラック等の色別に別けられ、さらに繊維の細さや、長さの等級で評価され値段も大きく違い、それこそピンからキリまであります。

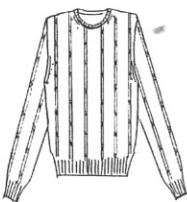
そんなカシミヤの中で三大カシミヤと言われる品質の原毛が中国内モンゴル自治区のオールドス高原で獲れるアルパス、臨河市東北部で飼育される二口ウサンとアラ善左旗に住むアラシヤンがあり、中でも世界一と評価されるのがアラシヤンなんです。世界のトップブランドが使用するのほもちろんトップクラスの原毛ですが基本は複数産地の原毛をブレンドして使用し、ピュアな原料だけを使うことはほとんどありません。アラシヤンだけを使うことはプロならアツと驚く本場に賛否な企画なんです。



カシミヤ100%アラシヤン
 ミニ・ケーブルストライプVPO

No. AM82101 ¥100,000.+TAX

天竺地にクラシックなケーブル柄を入れました。シンプルなケーブル柄が新鮮です。



カシミヤ100%アラシヤン
 ミニ・ジップ付きブルゾン

No. AM85201 ¥120,000.+TAX

ジップのブルゾンは着るにも脱ぐにもとっても便利。3本糸で最高に賛否なアラシヤンです。



カシミヤ100%アラシヤン
 レディースリブ 衿カーデガン

No. AL82201 ¥75,000.+TAX

リブの広い衿とスツキリの裾。袖口の広めの胸明きがとってもエレガントです。



中国・内モンゴルに世界一のカシミヤを訪ねる

秘境・アラ善（アラシヤン）左旗の半砂漠にカシミヤの群れが

長年の念願が叶ってカシミヤの故郷を訪れたのは、世界一と評価されるアラシヤンカシミヤが獲れる、中国・内モンゴル自治区のアラ善左旗地区。5月末のアラ善は春たけなわの頃でした。

アラ善に行くには日本から北京へ飛び、さらに西の内陸へ飛行機で約2時間。銀川が一番近い街です。

銀川は寧夏回族自治区の区都。チングスハーンの頃は西夏王国があったところです。黄土高原に近く黄砂の源のような処ですが、黄河の中流域ために水も産物も豊かな街です。

出発の朝は昨日までの黄砂も止み抜けるような晴天の元、かなりの量の水のペットボトルを車に積み込みいざ出発！

銀川の街を外れると昔旅したアメリカのアリゾナの砂漠を思わせる荒涼とした半砂漠で、頼りなげに走っている一本の舗装道路を内モンゴルとの境の賀蘭山脈に向かったひた走ります。

山々は樹木が全く無く僅かに草や灌木が生える半砂漠で、両側は地平線の彼方に山々が連なる広大な大地です。ここにカシミヤ山羊が生息すると言われてもにわかには信じがたいぐらい荒涼としています。

寧夏回族自治区と内モンゴル自治区を分ける賀蘭山脈の1600メートルぐらいの峠を越え内モンゴルに入るとついにアラ善左旗です。

ここでカシミヤの集荷業者の劉さんと合流し、劉さんの先

導で牧民の杜さんの放牧地へ向かいます。とうとうアラ善まで来た、感慨ひとしおの気分だったんですが、カシミヤとの出会いは唐突でした。

アラ善に入って暫く走って山の裾を通り過したとき、道路のすぐ傍で放牧されたカシミヤの一群と遭遇。あまりにも突然で『あれっ、カシミヤだ！』とみんな一斉に車を降りてシャッターを押します。群れの中には今年生まれた子山羊も混じってとても可愛い。カシミヤはかなり臆病で一定の距離に近づくとゆっくり逃げ出します。後で写真を見るとほとんどが後ろ向きの写真ばかり。

ひととおりシャッターを押して、興奮が収まって車に戻り再び半砂漠の一本道を西へ走ります。30分ほど走って先導の劉さんの車がいきなり舗装道路を外れて半砂漠の中に入り入れます。車の轍ががすかに残る砂の中に車が入ると頭が車の天井につくぐらいにゆるゆる道なき道です。それにしても広大なアラ善の砂漠の中に点在する牧民の家を探すのは劉さんの案内なしでは絶対不可能です。



地平線まで続くような広大な半砂漠の一本道（中国・内モンゴルアラ善）

迎えて頂いた杜さん夫婦は父親の代からカシミヤの牧民をやっているという。家の外壁は日干し煉瓦積みで簡素だけれど家の中は思ったより明るい。

杜さんの家族は4人。2人の子供は学校が遠くここからは通えないので寄宿舎に入って週末に帰ってくるのを楽しみにしている目を細める。山羊のミルクの入ったお茶と羊の油で揚げたという『かりんとう』で迎えていただいた。なかなか美味しい。

カシミヤの収穫は年に一度。冬毛が生え変わるこのシーズンに採毛と採毛を見ることが出来ない。もちろん杜さん夫妻にとっても今が一番忙しいときなので、早速カシミヤの採毛を見せていただく。

カシミヤの採毛はバリカンで刈る羊の毛刈と違って熊手のようなもので長い剛毛の内側にあるうぶ毛を梳きとるんです。始めはカシミヤが痛がるんじゃないかと心配してはいたけど、カシミヤは案外おとなしい。

ひと櫛ごとにかかなりのうぶ毛が獲れます。見事なうぶ毛というのが僕にでも分る長く細い毛です。こんな機会はないのでちよつとやらせてもらいましたが、山羊が可哀想でなかなか思いついて梳けなく、恐る恐るやると『それじゃカシミヤが可哀想』と言われてしまう。杜さんの手つきはさつさつとリズム良く梳いて小一時間ほどで梳き終わりました。

うぶ毛を梳かれたカシミヤはさつぱりして、床屋さんに行った感じです。昼近くになると外の気温は30度を越えています。空気が乾燥しているので汗は出ないけど太陽の光はとつても眩しい。これからは40度を越すような日が続くということなので冬毛のままではそれこそ可哀想。

カシミヤの毛は人間が梳かないと夏毛に変わるときに自然に落ちるか、岩などに擦りつけて毛を落とそうとするそうです。そのような毛は砂が入ったり痛みんだりするので今の時期に梳いてあげるのがカシミヤにとつても良いんだそうです。

今回ここに来るまでは人間のためにカシミヤが強制的にうぶ毛を取られるかと思っていたので、牧民とカシミヤの良い関係を知って、僕らの仕事はカシミヤの犠牲の上で成り立っているんじゃないかと、あの可愛いカシミヤにとつても良い事だと知って嬉しくなりました。これを知ったのが今回の旅の一番の収穫だったかも知れない。

杜さん宅からの帰途、地平線まで続くような広大なアラ善の半砂漠の中を走っていると、白いカシミヤ山羊の放牧の群れが点々と現れます。

長年の想いが実現した嬉しさで一杯でした。



土毛の選別はすべて手作業



初めてのカシミアうぶ毛梳きを体験



中国・内モンゴルアラ善(アラシャン)盟左旗の広大な半砂漠に点々とカシミアの放牧の群れが

忙中暇話・ニット屋のたわごと

世界一のカシミアに挑戦

UTO ALASHAN



『カシミアに関しては日本一、と自他共に認め、創業35年を迎える三越として、アラシャンで獲れた世界一のカシミアで、世界でも例を見ないニットのセミアオーダーをやりたいので是非協力して欲しい』というお話を持ってきたのは三越百貨店商品本部の石井さんと田村さんで、昨年秋のことでした。

『これが実現したら、それこそ世界一のセーターが出来ると』と、カシミアのUTOとしては願ったり叶ったりのお話。二つ返事でお受けしました。

そのときに石井さんが持参されたのがアラシャンの糸で、『エツ！アラシャン100%ですか？』と聞いてしまいました。その糸を手配されたリンドン・ドージャーという会社でした。

カシミヤは昔で混雑問題が出るほど醜態騒動が跋扈する世界で本当に信頼する人と取引しないと後々とんでもないことが起こりかねないのがこの世界なんです。ましてやUTOはカシミヤが主体ですから問題が起こると倒産の危機まですりかねないので慎重に慎重にお話を伺います。お話を聴きすると3人も業界では超ベテランの面々でとても信頼のおける人たちでした。

カシミヤの関係の日本人として始めて現地のアラ善に行つて、カシミヤの原毛の収穫から糸が出来上がるまでを確かめ、カシミヤの毛の収穫から製品までトレーサビリティが分る物づくりを実現しようということになりました。

実際に現地を訪れたのは三越の松本さんとリンドンの3名。カメランの伊藤さんと私の総勢6名。

可愛いアラ善のカシミア達に会えたのはもちろんですが、中国の紡績工場の実情を見ることが出来たのも大きな成果が得られ、また驚きでした。

工場が大きさと清潔で近代的な設備。そして何よりも驚いたのが誰も知っていたヨーロッパの超一流ブランドの糸や原料がこの製品と分り、『なんだ、VもMもLの原料もここから行ってるんだ！』と妙に納得。でも今回のアラシャン100%の原料を使った企画は、それらのブランドを上回る原料を使うことを確認出来てみんな大満足。皆の意気がおおいに盛り上がりました。

これを期に、UTOでは、ユーティオー・アラシャン(UTO ALASHAN)ブランドを秋からスタートします。一度、手にとって世界一の肌触りを確かめてください。

世界のホテルをお勧め (二十六)

元、旅行屋のお勧め 銀川(インチョワン)・中国

柏悦酒店 Park Boyue Hotel

早朝出発した北京は風が強く黄砂で25300メートル先が霞んで見えないぐらいでしたが、その北京からさらに西の内陸に向かって飛行機で約2時間、黄砂の発生源に近い銀川の街も風が強く黄砂で白く覆われていました。

寧夏回族自治区の区都、銀川市は人口180万人のこの街は黄河中流域で水も豊富で豊かな地です。

17階建ての柏悦酒店はこの街一番の高層建築で、いわゆる国際級ホテルです。

柏悦酒店はダブルベッドルーム、1泊朝食付きで4600円也。日本円にすると約7000円でした。日本のビジネスホテルと変わらないけど、日本の10分の1と言われる物価に直すと7万円也！それこそラグジュアリーホテルです。日本での出張だったら僕のような貧乏人の泊まるようなクラスではない。客のほとんどが外国人が沿海州辺りの大企業のお偉いさんだそうです。



宿泊した1222号室はかなり大きなダブルベッドがデーンと鎮座し、バスルームはガラス張り、アメニティも充実して、壁に液晶の薄型TVが備わって寝たま見れるし、CNNまで入ります。

このホテルで最も印象的だったのが朝食。洋食、中華、飲み物、果物、スイーツがずらりと勢ぞろい。料理人さんもいて客の要望に応じてラーメンや卵料理をその場で作ってくれて、まさに高級リゾートホテルのようでした。

こんなに馳走が並んでいても貧乏に慣れている身として、食べられるのはいつものトーストに卵と野菜サラダとヨーグルト。目だけ十分満腹でした。

初めての街で何よりの楽しみは朝の散歩。朝6時、明るさは日本とそんなに変わらない。けつこ肌寒い中を男3人、中山公園から寧夏省立体育館と公会堂の間を抜け銀川一の繁華街を通り玉皇門まで約1時間。

玉皇門の横の通りの100メートルぐらいが朝の露天で大賑わい。今日の散歩の一番の目的がこのバザールでした。それにしても凄まじい混雑です。通りの両側に露天が並び、呼び込みの声がけたましまし。銀川は砂漠の街と勝手に思い込んでいたので野菜をはじめ果物、乾物、乳製品、肉、魚など生鮮食品をはじめ豊富な食材にビックリです。

回族のお兄ちゃんが焼いていた直径20センチぐらいのパンのようなものにひき肉をはさんで焼いていた奴がとっても美味しそうでした。思わず『つくたさい』と言いつつ食べたが、『今から朝食だし、あれを持って歩いたら手がべとべとになってしまう』と止めましたが、後になって、『あれ、食べてみたらよかった』とまだまだ心残りです。